

高温・計画停電回避に向けた水稲収穫・乾燥について

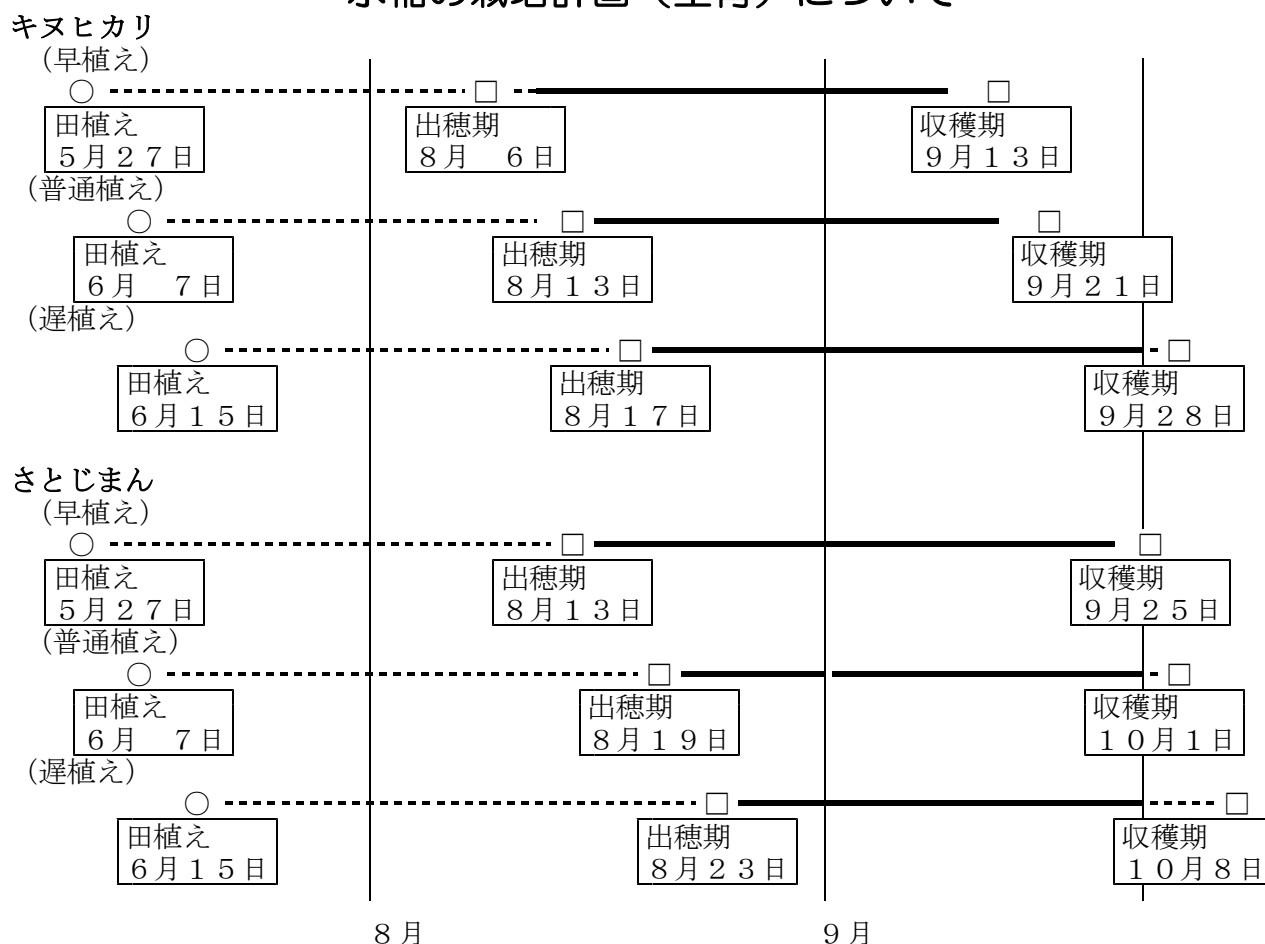
農業技術センター普及指導部

水稲の育苗が始まりますが、早植え栽培では高温による品質低下のリスクが高まります。また電気の需用量が多い高温時に収穫適期となります。

計画停電は回避の方向ですが、需要量の多い時期の節電が求められています。

このため、なるべく遅植え栽培することによって、高温の影響を少なくし、加えて電気の需用量の多い時期の作業を避けることを検討してください。

水稲の栽培計画（生育）について



① 温暖化による高温の影響

- ・ 出穂期または成熟期の高温によって、乳白粒、基白粒などにより品質低下につながる。田植を遅らせ、出穂期前後の期間が高温に遭遇するリスクを避ける。

② 10月収穫による乾燥・調製時の低コスト化

- ・ 気温・湿度が下がる10月に乾燥作業を行うことにより、乾燥時間が短くなり、低コスト化につながる。

③ また、万一計画停電が実施された場合には

- ・ 乾燥作業中断で中途半端な乾燥により水分が十分に下がらず、蒸れる恐れがある。
→ 停電時間を考慮して作業を行うことにより、中断によるリスクが回避できる。
- ・ 作業中断により、作業効率が落ちる。
→ 状況に応じて作業計画を立てる。(調製は急ぐ必要はない)
特に計画停電のため作業を前倒しにして急いで行った場合、温度が十分に下がらないうちに舂すりすると、肌ずれになる場合がある。